

第5回 武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会 主要議事一覧

発言者	項目	意見	県の回答	他委員の関連意見
大石	河川環境	支川の河川対策について、「目標流量を安全に流下させる」という点では目標を達成できていると考えられるが、コンクリート護岸等を整備することにより、河川環境の面で、特に生態系への配慮の面で懸念される部分がある。	護岸の前面に置き石をする、環境に配慮した護岸を使用する等によって、生態環境の回復を目指している。今回は施工直後の写真であるが、時間の経過とともに植生は回復していくものと考えている。今後とも環境に配慮しながら河川対策を進めていきたい。	
上甫木	流域対策	校庭貯留や田んぼダムなど、様々な手法による取り組みがなされており、地域ごとに手法の違いが見られる。流域全体での貯留量を指標とするだけでなく、小流域単位での目標管理・進捗率の把握が必要なのではないか。	貯留施設は、尼崎市・西宮市では校庭や公園の貯留が主体になり、ため池の多い三田市や篠山市ではため池貯留が主体となる。市域ごとの特徴を踏まえた目標貯留量は設定している。目標達成に向けて事業を進めていきたい。	
竹林	モニタリング維持管理	河川対策として河道掘削を行った箇所では、将来土砂が堆積し、河積が減少するおそれがある。横断形状等のモニタリングを行った上で、モニタリングの結果を事業の進捗率評価に反映させる必要がある。	堆積傾向であることについては我々も認識している。測量等によって堆積が確認された箇所については掘削を行うなど、適切な維持管理を進めていきたい。	
藤原	その他(津波)	地域の住民は、大規模地震時に、遡上した津波が堤防をオーバーフローすることを心配している。	地震時の堤防の安全性については、県では南海トラフ地震を想定した津波浸水シミュレーションを行い、南海トラフ地震においても津波が堤防を越えることはないを確認している。しかしながら、あくまでもシミュレーションの想定であるため、減災対策と合わせて対策に取り組む必要性は認識している。	
	河川情報の伝達	洪水時には、水位の情報等が様々な形で発表されているが、住民にとっては安全なのか危険なのか分かりにくい面があり、改善を望む。	現在は、インターネットを通じたカメラ映像の提供やデータ放送による水位情報の提供といった情報提供を行っている。今後ともよりわかりやすい常用提供に努めていきたい。	
	その他(親水性)	川に入って遊ぶ子供たちの姿を見ることがなく、武庫川の親水性は低下していると感じる。水は以前より少しきれいになっていると思うが、水質の改善も含めて親水性を高め、地域の財産として活用することを考えていくべきではないか。県だけでなく地方行政も含めて活用について検討していかなければならない。	自然に配慮した護岸整備を進めていく上で、環境学習を通じて川に触れあえる場を増やしていきたい。	
服部	その他(防災教育)	防災教育については小学校の環境体験学習を機会として活用するべきではないか。教育委員会との連携により、学習の場を確保していけるとよい。また、その際には、河川環境の良い面だけでなく、河川の危険性等も合わせて実施することが重要である。また、現場を見せることも重要である。	(河川管理者としては) 現在行っている出前講座の活動の中で防災面について話をしている。	<大石> 実際に配付されたハザードマップが有効に活用されていない。小中学校の環境体験学習の中でハザードマップの見方を伝え、子どもから地域に安全対策を浸透させる取り組みができればいいのではないか。
	植生管理	植生の管理については、防災の視点も含めて武庫川全体の植生がどうあるべきかといった植生管理計画を定め、その上で個々の事業における対応を考えるべきである。	植生管理については、ご指導を頂きながら進めていきたい。	
大北	動植物の生活環境保全・再生	川にあった深みやワンドが無くなり、魚が少なくなっていると感じる。	アユについては、本年に行った調査では、1号床止めから8号床止めにかけて、7,000弱の個体が確認されている。2号床止めでは、魚道の改良を進めている。	
宇田川	減災対策(公助・共助)	災害時要援護者の避難に資する取り組みについて、今後の進捗管理は、登録要援護者の数など、具体的な数値目標によって管理することが望ましい。	防災部局と連携を図りながら検討していきたい。	
	減災対策(公助・共助)その他(防災意識)	防災面の取り組みの推進として、特に人命救助という意味で、将来的には、災害弱者が多い福祉施設(特養老人ホームなど)や下流部の工場・企業における防災マニュアルの整備も視野に入れることが望まれる。	防災部局と連携を図りながら検討していきたい。	
上甫木	減災対策	様々に行われている減災に向けた取り組みの状況について、流域住民にどの程度浸透しているか、意識調査を行うことも必要ではないか。アンケートを実施することが意識啓発につながっていく側面もある。	出前講座、事業説明会等でアンケートを取ったことはある。検討したい。	

	各戸貯留	貯留タンクについて、戸建ての家で何軒程度設置されているのか。家が並んでいる町屋であれば、貯留タンクをどこへ付けるのか。もっと別のシステムで貯留できるようなことが考えられないのか。	報告している数のうち、かなりの数が戸建て住宅での設置数である。	
藤村	減災対策 (ハードマップ) (防災リーダー)	手作りハザードマップについては、作成し利用できてよかったという効果が広がっていない。作成の気運が広がらず、消極的な状況である。効果が周辺に広がる方策がないか。防災リーダーについても、存在や役割について、一般の人達に見えやすいようにする必要がある。	市、防災部局と連携を図りながら方策を探っていければと思っている。	<大石> 手作りハザードマップについては、ハザードマップそのものの効果のみならず、作成を通じて地域の危険性をあぶり出すなど、体験を共有する場としての効果も期待できる。
藤原	減災対策	防災対策の全てを県が担うことは無理である。県は大変よくやってくれていると思っている。流域市町との役割分担を整理した上で、取り組みを進める必要がある。私たち地域住民がしなければならないこともたくさんある。	—	
坂井	減災対策	防災のテーマについては、地域密着型の市・町で担う部分がかかなり大きな比重を持っている。ハード的な取り組みについては、県でリードしていただき、人的な防災面については市で責任を担って取り組んでいきたい。	—	
林	減災対策	神戸市は減災対策が重要だと思っている。河川に対する関心なり、その愛護の精神、防災に対する考えも含めて、啓発活動を活発にしていかなければならない。この点については今後とも力を入れていきたい。	—	
	動植物の生活環境保全・再生	アカミミガメ、通称ミドリガメ等の外来生物を捕獲した際に、外来生物法の規制があり、リリースする以外に対応できない。外来生物対策について有効な対策はないか。	武庫川における特定外来生物への対応としては、オオキンケイギク、ミズヒマワリ等の植物については駆除の取り組みが始まってきているが、アカミミガメ等の動物については現在では対応できていない状況である。国の動きとして環境省では平成 27 年度からアカミミガメの防除等を総合的に実施していくためのプロジェクトが進められようとしており、今後注視していく必要がある。	
北添 (欠席)	多自然川づくり	「多自然川づくりの視点での維持修繕」ということで、洪水時に同じような被害が発生している高水敷の復旧について、川の自然の流れにまかせてしばらく様子を見てはどうか。	武庫川の高水敷は多くの方が利用されている貴重なオープンスペース、レクリエーション空間であること、また当該被災が新たな損傷を助長する可能性があることから、基本的には速やかに復旧することとしている。多自然川づくりという視点では、改修の計画においては、現状の河道形態を保全するため、河床掘削にあたっては、掘削前の形状を考慮するスライドダウンや、治水上支障がない範囲において堤防法面や高水敷の緑化修景等に努めることとしている。今後も災害復旧のみならず河川改修工事および維持修繕工事においても多自然川づくりの視点で取り組んでいく。	

<傍聴者発言> (4名)

- 今後 20 年間の PDCA サイクルにおいて、基準となる水位・流量といった数値を、近年の降雨や出水の実績を踏まえ、見直していくことも必要なのではないか。
- 魚にとってやさしい環境とするために、正常流量を見直すことを希望する。また、議事の中で言及されていたアユの調査結果について、ホームページ等で公開して頂きたい。
- 河川整備計画を検討した時点では、ここ数年のような雨の降り方は想定されていなかったのではないかと。近年のような雨の降り方により、掘削を行った上流部についても、想定以上に土砂が堆積するといった事態が懸念される。今後の 5 年に向けては、こうした近年の雨の降り方を踏まえたマイナス面も整理しておく必要があるのではないかと。
- トピックとして紹介された千苺ダムの活用は有効であると考えている。事業を進めていってほしい。